

近江商人

近江商人は、近江国（現在の滋賀県）の商人で、16 世紀から 19 世紀にかけて全国にその名を轟かせた。遠く離れた都市や町に企業を設立し、その鋭いビジネス感覚と勤勉さ、そして公正な取引の精神で高い評判を得た。また、明治時代の日本経済の近代化にも貢献し、彼らが興した事業の多くは、現在も活躍する企業へと発展していった。

近江の商人たちは、それぞれの地域の商品を取引し、異なる地域で活躍した。八幡商人は、蚊帳や畳表、麻布製品などを扱っていた。江戸にいち早く出店し、蝦夷地（北海道）の発展にも貢献した。シャム（タイ）やアンナン（ベトナム）まで足を伸ばした八幡商人もいた。